

普及活動情勢報告（令和元年12月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

事業戦略の見直しに向けて ～中山間農業複合経営拠点フォロー会議の開催～



SWOT分析を行う社員ら

11月26日、JA高知県四万十営農センター会議室で、営農支援センター四万十（株）のフォロー会議が行われ、社員など13名が参加しました。

アグリ事業戦略サポートセンターが講師となり、事業戦略の見直しに向けて農業生産や組織体制をテーマにSWOT分析を行いました。

社員からは、「設備、機器は充実しているが、第3セクターであるがゆえに会社としての目標が明確でない」「繁忙期の人員が不足している」などの課題が挙げられました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、事業戦略の見直しや取組の実行を支援していきます。

厳寒期のハウス管理と春先のアザミウマ対策の徹底 ～JA高知県四万十二ラ支部会の開催～



ほ場での意見交換する生産者

12月3～6日の4日間、JA高知県四万十二ラ部会支部会が4地区で開催され、生産者延べ50人が参加しました。

普及所からは、厳寒期のハウス管理についてと春先へアザミウマを持ち込まないために冬場の農薬散布について情報提供しました。

生産者からは「内張りと外張りどちらを先に開けるか」「冬場も殺虫剤をやっておかないといかんね」など、活発な意見交換が行われました。

今後も関係機関と連携し、ニラの品質収量向上に向けて支援を行っていきます。

次作に向けて本年度の栽培を振り返ろう！ ～JA高知県四万十夏秋ピーマン反省会の開催～



病害対策の説明を受ける生産者

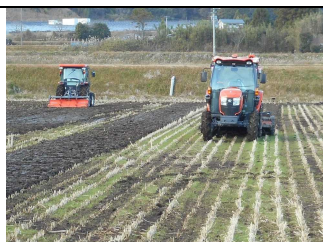
12月5日、JA高知県四万十夏秋ピーマン部会の反省会が行われ、生産者22名が参加しました。

普及所は、本年度、病害防除に苦慮された生産者が多かったことや、新規生産者が2年間で8名増加したことなどから、病害対策についての説明を行いました。また、IPM試験結果の報告や、「キリナシノズル」を使った防除結果なども情報提供しました。

生産者からは、「病害虫の発生や、気象、農薬散布日などを振り返ってみる」「葉裏まで思ったよりもかかっているのだな」「新規生産者を対象とした勉強会があったらいいな」などの声が聞かれました。

普及所は、この会での意見を参考に、次作に向けた病害対策などを関係機関と協議していきます。

水田農業の更なる省力化に向けて ～ロボットトラクターの活用試験の実施～



自動走行するロボットトラクターと有人トラクターとの並行作業試験の様子

12月9日、営農支援センター四万十(株)のほ場で、ロボットトラクターの自動走行機能を活用した耕耘作業の比較試験を行いました。

本年度は、ロボットトラクター1台での自動走行を実証してきましたが、更なる省力化に向けて、有人トラクターと2台での並行作業の可能性を検討しました。オペレーターが目視とタブレットによりトラクターを監視することで、並行作業による作業時間の削減が図られました。一方、安全性の確保や作業が実施できるほ場が限定されることが課題として明らかとなりました。

普及所は、今後もコンソーシアムの構成機関と協力して、作業の効率化に向け、スマート農業実証事業に取り組んでいきます。

見て、聞いて、話してナットク！ ～はちきん農業大学高南地区講座の開催～



熱心に受講する参加者

11月28日、12月10日、専門家を講師に迎え高南地区講座を開催し、女性農業者や新規就農者など延べ18名が参加しました。

講師として社会保険労務士からは、家族や雇用者が働きやすい職場づくりについて、税理士からは、記帳結果を経営改善に活かすポイントなどについての講義を行いました。

受講生からは「うまく経営していくための働き方のポイントが解りやすかった」「経営管理についても、就農前に勉強しておかないといけない」などの感想が聞かれました。

普及所は、今後も地区講座等を通じて、女性農業者、新規就農者の農力向上を支援していきます。

農薬事故防止に向けて ～JA高知県十和地区シシトウ部会役員・班長会の開催～



農薬の希釈方法を説明する普及指導員

12月10日、JA高知県十和地区シシトウ部会の役員・班長会が行われ、生産者5名が参加しました。

農薬事故防止に向けて、JAと普及所が作成する農薬一覧表の見直しや、次年度に取り組む品種試験などを検討しました。

普及所からは、病害虫の被害が多い中、効果的な農薬や散布方法の確認など農薬の適正使用についての情報提供し、生産者からは、農薬の希釈方法などの質問がありました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、シシトウの生産安定に向けて支援していきます。